

本島通信

本島大教会 神殿講話(要旨)

【立教180年10月22日】

発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会
 電話 0877-27-3321 (代)

本島通信編集室 R.171024-1028-20
 奈良県天理市指柳町 270-1
 本島詰所 〒632-0093
 電話 0743-63-1571 (呼)

Email: news@honjima.com
 発行部数: 933部 (先月比±0)

大教会 朝夕おつとめ時間
 【11月1日～12月31日】
 朝づとめ 午前6時45分
 タづとめ 午後6時00分

ふしこそ旬をつかみ、心を定め、難しい方を通ろう

大教会世話人 宮森与一郎先生



本日は本島大教会の秋の大祭に参拝させて頂きましたので、少しお時間を頂戴して、いま思っていること、考えていることをお話しし、ご相談申し上げ

げたいと思います。しばらくお付き合います。い下さいますようお願いいたします。

かんろだいのふしを通ろう

まず最初に申し上げたいことは、7月26日、こどもおちばがえりが始まったその日の夕方に、かんろだいが倒れるという大きなふしがありました。

日本国内はもとより、特に本島大教会はアメリカ・ハワイにも部内が多く、おちばに心を寄せよう、おちばに人を連れて帰ろうと一生懸命に心を尽くして頑張つて下さっている皆様方にご心配をかけ、誠に申し訳なかったとお詫

びを申し上げたいと思います。

8月24日に、新しいかんろだいに据え替えられました。今後はこのようなことのないよう、おちばの者がこれからの心を尽くして勤めさせて頂きたいと思ひます。

さて、かんろだいが倒れるという大きなふしでありました。その一方で、お道はふしから芽が出ることも教えて頂きます。

おさしづの中にもふしという言葉はたくさん出てきます。たとえば、明治33年9月14日のおさしづに、

「天然はふしある。天然というはふしから理治まる。これ天然と言う。」

また、「ふしから一ツ治めるなら句々といつ。」(おさしづM29・27)

このたび、お道にとって大きなふしでありましたが、私達の身近な生活の中にも、ふしがある。また、天然はふしであるとも教えられております。

たとえば季節の変わりや、今日のように大きな台風が来るのも一つのふし、かもしれません。

そういう時にこそ、しっかりと勤め切るならば、理が治まると教えて頂き

ます。神様の御守護が治まるという意味でありますから、こういうときにしっかりと心を治めて通つたら、句々という。句とは、物が芽生える。実りを頂くという意味だと思ひます。

一つのふしを頂戴したときに、しっかりと心を治めて通るなら、親神様の御守護を頂戴できる。という意味だと思ひます。

それでは、どういう心を治めて通つたらよいのでしょうか。

このたびは、かんろだいが倒れたというふしでありましたから、今この時にこそ、もう一度おちばについて、かんろだいのことについて、芯という意味について、真柱様の理について、そこから頂戴する私達の勤め方について、特につとめ一条について、たすけ一条のつとめ方が出来ているのか、考えさせて頂く時ではないかと思ひます。

明治21年9月10日のおさしづに、「ふしは心一ツ定め。どういつ、あちらもふしや、こちらもふしや、だんくふしや。心定め、理やく、定め心の理や。」とあります。

すなわち、ふしを見せて頂いた時こそ、親の思いをしっかりと悟つて心定

めをせよ、ということだと思っております。

お道全体にとっては、自分自身がつとめ一条、たすけ一条の道を通っているかどうかという反省。そして、普段の日常生活の中で、いろいろなことを見させて頂く中では、それぞれ個人の悟り方があると思います。その時にこそ、しっかりと親神様の思いに沿うような心定めをさせて頂く。これが肝心であると思うのであります。

これは明治22年10月9日のおさしづに、

「ふしが無ければ、何かの事も聞き流し。(中略)一つのふしが無ければ聞き分けが出来ん。」

とも仰せられております。

こういうふしの時にこそ、親神様の神意はどこにあるのか。神様の御心は、いったい私達に何を求めておられるのかを考えるべきであると思うのであります。

ともすると、自分は正しい。自分は一生懸命やっている。しかし、それが果たして親神様の思召に沿っているかどうかは、これは難しいときがあります。私達は一生懸命やればやるほど、人間思案に陥るおちいこともあります。そのことを親神様は時々いろんなふしで教

えて下さっているのかもしれませんが。

また一つ、明治37年8月23日のおさしづに、

「もうあかんかいなあく」というは、ふしといふ。精神定めて、しっかりと踏ん張りてくれ。踏ん張りて働くは天の理である、と、これ論じ置こつ。」

とあります。

もうあかん、もうだめや。という時にこそ、親神様の思いを悟り、しっかりと心定めをして通り切る。「踏ん張りて働くは天の理である」とあります。そのような御用のつとめ方をさせて

頂いてこそ、親神様の働きが現れるというのではないのでしょうか。

私達の日常の中でも、いろんなふしがあります。病気になったり、ケガをしたり、思わぬ事情に巻き込まれたり。そういうときにこそ、親神様は何を求めて下さるのか、そして何を心定めするのか。そして、どういう通り方をするのかを、その時に考え直さなければならぬと思うのであります。

おふでさきに、

かんろたいすへるところをしいかりとぢばのところをむつもりを

とあります。

(第九号19)

いかん様のお出直つひん

明治8年5月26日、教祖は「ぢば定め」をされました。

おつとめは、慶応2年に「あしきはらいたすけたまへ」から始まり、それ以来ずっと教えられ、明治8年「いちれつすますかんろだい」の地歌と手振りを教えられて、おつとめのすべてを教え終えられるのであります。

明治8年はもう一つの出来事があります。それは教祖の一番末娘である「いかん様」がお出直しになるのであります。

あれいんでくらほどなにもすきやかにたすかる事をはやくしりたら

それしらすどふどいなさすこのとこでよぢよさしてをことをもたでこんな事はやくしりたる事ならばせつなみもなししんバいもなし

にんけん八あざないものであるからに月日ゆ八れる事をそむいた

(第十一号33、36)

これは何を仰せられているのかと言いますと、いかん様にはおはる様というお姉さんが居られました。このおはる様は梶本家へ嫁いでおられ、お子さんも授かって居られたのですが、まだ小さい子供達を残して出直されまし

た。

昔の風習で、実家にまだ独身の女性が残っていると、その後添えのちせに行く。子供達の面倒も、叔母さんでありますから、一番親身になって見られる立場であります。ですから周りの人たちは、中山家に残っておられたいかん様に「亡くなったお姉さんの子供の面倒をみるために、梶本家へ後添えに行きなさい。世話に行きなさい」と皆が勧めたのであります。

しかし教祖はいかん様に対して、おぢばで御用をする身だから、行くなど仰せられません。周りの人は、行かなければいかんやろう。それが常識や、人の道やと説いたのであります。

いかん様は、可愛い小さな子供達を残して出直したお姉さんや、残された子供のことを思って、梶本家へ行かれるのであります。

ところがいかん様は梶本家で身上になられました。教祖は帰ってこいと仰せられますが、梶本家では、少しこの梶本の家で養生していたらすぐ良くなると言われたのですが、そのままいかん様は梶本家で出直されました。

いかん様お出直しのとき、教祖は奈良監獄所の中に居られました。出直された翌日、特別に釈放され、奈良から

おぢばへ帰られる途中、樺本村の梶本家へ立ち寄られます。そして、出直された「かん」様の頭を撫でて、「可哀相に。早く帰っておいで。」と仰せられたのであります。どんなお気持ちでありましたでしょうか。

おふでさきでは、

これから八どんな事でも月日に八

もたれつかねばならん事やで

どのよふな事をするにも月日にて

もたれていればあふなけ八ない

このよふなけへこふなるのみちすしをしらすにいたがあとのごふく八い

(第九号37~39)

と続いていきます。

「こかん」様の身上お出直しを通して、私達に教えられたことは一体何なのか。人間の私達の常識、その方がいいだろう、その方が人がたすかるだろう、その方が人の道だろうと考えることと、神様の思案は違うということがあるのであります。

自分では人間思案に陥っていないと思つたところが、実は違っているというところがあるということであります。

教祖は、「こかん」様の命を懸けてまで、このことを私達に伝えようとされた史実であると思つのであります。

教会の神殿ふしん

私は京都で教会長を勤めさせて頂いております。

単立の小さな分教会で、山の上にあります。

今の神殿は、私の教会が入る前に、他の教会が入っていた神殿で、不便だからとその教会は移転され、空き家になつていたところにお目標様を頂戴して、祀らせて頂いております。

戦前に建てられた教会で、一時期ずっと空き家になつていたのであります。すから、神殿は古くて傷んでいます。なかなか普請にかかれなかつたのですが、このたび、その山の上から移転して普請をしております。ちつちやな教会ですから、大きな普請はできません。お金も人もありませんから、本当に安普請であります。私の教会にとりましては精一杯、取り組ませて頂いております。

この普請が、なかなか難しいのであります。移転地購入のこと、神殿や附属建物の設計のこと、建築確認の申請など、初めてのことはかりです。いろんな規制があつたり、お金の問題があつたり、上手くないことがたくさん出てきて、教会長として心配する

ことばかりです。

例えば、神殿建築でありますから、行政からいろいろ指導されます。車椅子用トイレを作りなさいとか、点字ブロックを門から神殿まで埋めなさいとか、大層な教会ではないのですが、今まで想像もつかなかったような注文が入つて、なかなか許可が下りません。自分の教会のことでありますから心配するのですが、心配をしてもどうにもならない。

どうにもならないならば、神様に任せして、おぢばの御用に励ませて頂こう。特に今年は大亮様のご結婚がございましたので、立场上、その御用をしつかりさせて頂こう。おぢばに詰めて勤めさせて頂こう。

すると、問題が一つ解決する。不思議なものです。

また次の問題が出てきた時も、どうしても上手いこといかない。ま、いいわ。おぢばに伏せ込ませて頂こうと思つうと、少し解決する。本当に不思議なものであります。

普請もきれいにやろうと思えば思うほど、泥沼にはまるのですが、もうお任せして、私はおぢばの御用にしようと思つた時にこそ、教会の普請は少し進む。というような状況であります。

明治24年2月20日のおさしづに、

「さあ、理を知らそ。かんろつ、だい」といは、何処にも無い、一つのもの。所地所何処へも動かす事は出来ないで。」

とあります。これは教祖5年祭のときに、教祖がお住まいになつていた御休息所へかんろつだいを動かして、おつとめする事をお願いになつたときのおさしづであります。

かんろつだいは、おぢばから動かすことは出来ない。どこへも動かしてはいけない。このおぢばでおつとめをする、そのためのかんろつだいでであると教祖え頂きました。

おふでさきに、

いまうで八このよはしめたにんげんのもとなるぢばわたれもしらんでこのたび八このしんちつをせかへちつゑどぶぞしいかりをしゑたいからそれゆへにかんろつふたいをはじめたわほんもとなるのところなるのやこんな事はじめかけるとゆつものもなせかいちつをたすけたいから

(第七号34~37)

とあります。

このおぢばで救われることをしっかりと教えたい。それを教えることによつて、世界中を救いたい。これが教祖の一番

の心配事であります。この教祖の心配事を担わせて頂くのが、私達の務めでもあります。これを務めさせて頂ければ、自分の心配事が消えていくのであります。このことを、今もう一度私達は心に置き直させて頂きたいと思うのであります。

ふしは美りの旬

以前、おちばの海外部で勤めていたある青年さんのお話をしたいと思います。

天理大学英米学科を卒業後、海外部で10年間勤めてくれました。その間、結婚し子供も生まれて、勇んで勤めてくれていたのですが、膠原病にかかりました。

膠原病とは全身の複数の臓器に炎症が起こり、その臓器のいろんな機能が失われ障害をきたしていく病気です。いろんな症状が出るようですが、リュウマチもその一つのようなようです。

彼の場合は、憩の家病院に入退院を繰り返していました。一年のうち、3分の1以上は入院しているような状況になりました。

ある日、退院をしてきて勤務に戻ったとき、休んだ分を取り返そう一生懸命やろうと思ったのでしょう。大きな

荷物を持った途端、足の上に落としてしまい、今度は膠原病ではなくて、骨折で入院しました。

しばらく経って退院し、ギブスをはめていましたが、勤務に戻ってきた日に何を急いだのか転びまして、反対側の足も骨折してしまいました。

膠原病を患っている上に両足を骨折して、なんと病院に縁があるのだろうかと思われました。

骨折が治り、再び勤務に戻って来たとき、私は「いつべん、親元へ帰っておいで。そしてお父さんが一番心配していることは何か尋ねておいで」と言っていました。

彼は一週間ほど実家へ帰り、戻って来て、お父さんの一番の心配事を聞いてきてくれました。

お父さんは部内で一ヶ所、会長さんのいない教会がある。山の中、丹波篠山にある本当に田舎の教会で、会長さんが数年間いない。信者さんはお婆さん2人だけという教会がある。そのところが一番気にかかっている、という返事でありました。

彼の父親は教会長で、彼は教会の次男坊でありました。ですから、教会を継ぐ必要はなく、ずっとおちばにおるつもりだったのですが、私が「どう思

うか」と訊きましたら、しばらく考えて「その教会へ行きます」と言うてくれました。

それから5年ぐらいいになります。先日おちばでばったり会いましたら、「実はあの後、膠原病の症状が発症せず、今は薬を飲んでいません」とのことでありました。

私達にはいろんなふしがあります。「なんでこんな身上に」「なんでこんなことに」「なぜ私は一生懸命やっているのに、こんな姿を神様は見せられるのか」といふときがあります。

しかしそれは、親神様がその実りある旬を教えて下さっている。その瞬間であります。

その旬をしっかりとつかめるか、つかめないかは、私達の心の持ちよう、使いようであります。そして、その時をしっかりとつかんで、どういう心を定めるのか、これが肝心であります。

さらに親神様が見せて下さるいろんな道、考えられる道の中で、一番今まで通りにくかった方を通して頂くこととです。

ふしの時こそ旬をつかむ。その時だと、心をしっかりと定める。難しい方を選んで通らせて頂く。この三つが大切であります。

どうか、それぞれ与えられる旬、見せていただく旬というのは違うかもしれませんが、それを逃さないような心の遣い方をして頂きたいのであります。

後継者講習会へ誘う

今、おちばでは後継者講習会が開かれています。

10年前にも後継者講習会がおちばでありました。

今回の後継者講習会は「自分の心に矢印を向ける」。自分はどうな心で日々を通っているのかということを、もう一度おちばで考えてみよう。というのが今回の大きなテーマです。

夫婦の間はどうなのか。親子の関係はどうなのか。これを一度考えてみる、ということに重点が置かれています。

前回の後継者講習会、本島大教会から受講された方は男子147名、女子140名、合計287名でありました。

今回、本島大教会から現在申し込んでおられる数は、男子109名、女子92名、計201名であります。

10年経って、前回の受講結果より申込み数は減っています。

まだ来年3月の25次まで、時間があります。どうか一声をかけ、なかなか

若い人に行ってもらうのは難しいのでありますが、教祖の教えを世界に広めるために、これからの道を担う人材の育成のための後継者講習会でありま

す。どうか難しい中でも彼らをみんなまで育てさせて頂く。そのような大教会全体の雰囲気作りをして頂きたいのであります。

教祖伝逸話篇の中に「えらい遠回りをして」というお話があります。

一〇 えらい遠回りをして

文久三年、榊井キク三十九才の時のことである。夫の伊二郎が、ふとした風邪から喘息になり、それがなかなか治らない。キクは、それまでから、神信心の好きな方であったから、近くはもとより、二里三里の所にある詣り所、願い所で、足を運ばない所は、ほとんどなくらいであった。けれども、どうしても治らない。

その時、隣家の矢追仙助から、「オキクさん、あなたそんなにあっちこちと信心が好きやったら、あの庄屋敷の神さんに一遍詣って来なさったら、どつやね。」と、すすめられた。目に見えない綱でも、引き寄せられるような気がして、その足で、おちばへ駆け

付けた。匂が来ていたのである。

キクは、教祖にお目通りさせて頂く、と、教祖は、

「待っていた、待っていた。」

と、可愛い我が子がるはると帰って来たのを迎える、やさしい温かなお言葉を下された。それで、キクは、「今日まで、あつちこつちと、詣り信心をしておりました。」と、申し上げると、教祖は、

「あなた、あつちこつちとえらい遠回りをしておいでたんやなあ。おかしいなあ。ここへお出でたら、皆なおいでになるのじ。」

と、仰せられて、やさしくお笑いになった。このお言葉を聞いて、「ほんに成る程、これこそ本当の親や。」と、何んとも言えぬ慕わしさが、キクの胸の底まで沁みわたり、強い感激に打たれたのであった。

皆さん、どうぞでしょう。親の姿です。

逸話篇の表題を見てみると、

「待ってた、待ってた」

「ゆうべは御苦労やった」

「かわいいそに」

「先は永いで」

「さあお上がり」

「ここは喜ぶ所」

「よう苦労して来た」

「子供可愛い」

「御苦労さん」

「ええ手やなあ」

皆、子供可愛いというテーマばかりであります。

教祖の優しい温かい姿、^{なま}優しい励ます言葉、嬉しい、よかった、楽しみやという言葉。可愛がる言葉。これに満ち溢れているのであります。これが親の姿であります。これを伝えるのが私達であります。

どうか、どんな中にあっても教祖の通られた^{ひな}ながたをたどり、優しい親の言葉を特に若い人たちに今かけて頂きたいのであります。そして親心を伝えさせていただけるような道を、共に通らせて頂きたいのであります。

どうかその上で、後継者講習会へ行ってくれないかと声をかけて頂きたい。

今日は台風が接近していますので、これで話を終わりたいと思います。

どうか教祖のたどられた道を、これから忘れずに明るく通らせて頂きましょう。

今日はありがとうございます。

(文責・片山幹太)

訃報

イリノイ教会長

沖五郎氏



沖五郎氏(イリノイ教会3代会長)は去る10月18日午後4時40分(現地時間)お出直しになりました。享年96歳。

葬儀は文岡邦人ミッドウエスト教会長斎主のもと、みたまうつしは10月18日午後、告別式は10月29日午後、シカゴ市内の葬儀社で執り行われました。

沖五郎氏略歴

大正10年2月6日生まれ。昭和27年5月27日、修養科第131期修了。昭和28年3月3日、教会長資格検定合格。同年3月10日、教師補命。昭和30年10月28日、アメリカ布教のため渡米。昭和56年5月26日、イリノイ教会3代会長拝命。教会長在職期間36年5ヶ月。



一手一つ

10月大教会教会長会議

立教180年10月22日

大教会長 片山幹太

まず計報です。現在、本島大教会の教会長の中では最高齢だと思えます。イリノイ教会の沖五郎先生が現地時間の10月18日午後4時40分にお出直しになりました。96歳でいらっしやいました。

本島通信によると、昭和28年11月23日、第1回青年会本島分会総会があった日の夕づとめ後の直会で、初めて本島先住民(ポリネシアン)が現れたときの酋長が沖五郎先生だったと記録に残っています。

また、昭和29年おやさとおしん青年会ひのきしん隊第1回隊に入隊されて、中山正信先生や、郡山の平野知一先生らと一緒に真東棟ふしんに伏せ込まれた話も聞かせて頂きました。

シカゴではイリノイ教会長をつとめながら、柔道を教えておられました。実は今月(10月)上旬アメリカ巡教のとき、シカゴで先生にお会いしたのですが、握手したらすごい力でした。

前回、2年前にシカゴへ巡教させて頂いたときは、柔道の指導者としてまだ現役で、小さい子ども達に柔道を教えておられました。私は、どんな教え方をしているのかとお訊きすると「とにかく、わしを投げさせるのだ」と。94歳が柔道着を着て、小さい子ども達に投げられながら指導されているとのことでした。

自分の身を投げ出している人材育成の姿勢にとっても学ばせて頂きました。さて、今月(10月)28日の全教野球大

会に本島野球部が出場します。

本島野球部には合い言葉があります。皆で円陣を組んで「一手一つ」という大きな掛け声をかけながら、右足を前に踏み込みます。

ピンチの時は円陣を組んで「一手一つ」。元気がないときも円陣組んで「一手一つ」。常に一手一つが合い言葉になっています。

そこで「一手一つ」について、天理教事典で調べてみました。

一般に「いつて」という場合、「いつてに引き受ける」「品物は皆一手ですよ」と用いるが、天理教では「一手一つ」という場合、幾人かの人をばらばらの心や別々の行動をとるのではなく、真底ひとつ心になること。また一つの行動をとることをいう。それには道の理に心を合わせ、互いに立て合いたすけ合うことが基本となる。『天理教教典』には、

私が真柱様のお宅で青年づとめをさせて頂いたときの話です。

お宅では毎日雨戸を出し入れします。夕づとめ後、木製の雨戸を閉めて、朝づとめ前に雨戸を開ける作業をするのです。外から一人が雨戸を流し、中の人戸袋に次々入れていく作業を毎日します。だいたい偶数で行うのがポイントで、特に6人でやると一番効率よく速いのです。

しかしある日、先輩方が前日夜が遅くて、朝起きられなかったときがありました。私が一番ペーパーだったものですが、それ以上は怖いので一人で雨戸を開けに行ったのです。本来、6人でやる作業を一人で。

ギリギリ朝づとめ前に間に合ったところ、廊下でまさ奥様とばったり会いました。「今、雨戸が終わりました」と申し上げたら、まさ奥様は顔を曇らせて「あんた、一人で徳積みをするつもりか」と叱られてしまいました。

私ははてつきり褒めてもらえるのかと思っていたところ、そうではなかったのです。

先輩であろうと後輩であろうと、本来6人でやるべきところを、私は怖い

だいすけ のぶえ 大亮様 布恵様 御成婚慶びの集い

真柱継承者である中山大亮様と布恵様のご婚礼が、9月1日に教祖殿で執り行われ、お二人は晴れて夫婦とられました。そして10月26日夕づとめ後、全教教友へのお披露目の場として、「御成婚慶びの集い」が東礼拝場前帯で開催され、本島大教会からも大勢の婦参者が駆けつけました。

午後6時45分頃、お二人は教会本部のハッピーをお召しになり、真柱様ご夫妻とともに東礼拝場基壇へご入場。天理教校学園高校マーチングバンド部による「祝典ファンファーレ」、参加者代表による「お祝いの言葉」、レーザープロジェクターとムービングライトを駆使した「光と音のページェント」、各会からの花束とレイの贈呈と続いた後、大亮様をご挨拶されました。

大亮様は、肌寒い中、集いに足を運

び祝福してくれる大勢の教友達にお礼を申し述べた上で、「結婚してまもなく2ヶ月、最高に幸せです」と新婚の気持ちを笑顔で披露され、「二人になって、にをいがけ・おたすけに幅が広がりました。これまで、各々がにをいがけた人の名前を書き出し、二人でおたすけの話ができるのが一番嬉しい」と、夫婦お互いが揃っておたすけの方向に向いている喜びを述べられ、「世界一明るく陽気な家族を目指したい。これからは皆様のご指導をお願いしたい」と締めくくられました。

続いてお二人は花道をパレード。両手で手を振り、満面の笑顔で歓声に応えられながら、ときどき自然と手を繋いで歩かれるシーンもあり、若いご夫妻の明るくお幸せそうな様子に、神苑一帯は祝福と感動に包まれました。

から一人で頑張ることを選んでしまった。一手一つではないということです。一手一つという言葉には「手」の文字が含まれます。円陣は手がなければ組めません。両隣の背中をしっかりとつかんで、「一手一つ」とやるのです。こういう姿勢を親神様はきつとお待ち下さり、楽しんでくださるのだと思います。

今日、ご講話頂いた宮森先生のお言葉を、自分一人だけの心に治めるのではなく、それぞれの教会の皆様にも伝えて、難しい方の道を一手一つに勇んで進ませて頂きましょう。
ありがとうございます。

(文責・本島通信編集室)

与島分教会創立100周年記念祭

与島分教会(岡崎八十則会長、香川県坂出市)は、大正6年1月29日に設立して今年が満100年を迎えるに当たり、10月15日に大教会長様ご夫妻(随員・篠原正王准役員)を迎え、秋季大祭に併せて創立100周年記念祭を執り行いました。参拝者約70名。

挨拶に立った大教会長は、まず教会が設立して100年を迎えるに当たり「百」という字の意は、白紙に戻り一より始めるを謂う。100年前の元一日、先人先輩がどのような心で教会設立を願ったのかを学ぶ節目に」と記念祭を迎える意義を述べた上で、教会に繋がるようほくについて「三信条である神一条の精神、ひのきし



んの態度、一手一つの和を改めて学び、心に治めて通ることが大切だと思えます」と、ようほく三信条を述べられました。

さらに教会のあり方について、真柱様のお言葉を引用され、「教会とは、身上・事情のおたすけを願う場。日々のご守護のお礼にと足を運ぶ参り所。この道を信じる人々がさらなる成人に努める場。教会長家族をはじめようほく信者が一つ家族のような、和やかな雰囲気をつたえている場。いずんでいるときも教会にあれば気持ち晴れる、安らぐ場。この5つを目指して頂きたい」と教会の目指す姿を示されました。

つづいて、座りづとめ、てをどりが陽気に勤められました。岡崎俊郎・育子前会長夫妻から見、現会長である子世代、さらに孫世代の全員が、お道につながり、三世代そろって一手一つにおつとめを勤める姿から、家族の絆が与島百年の確かな基盤となっており、先の楽しみな祭典となりました。

祭典後の直会は雨曇り模様の中、男性陣は餅つき、女性陣はフラダンスを披露するなど、手作りの和やかな雰囲気の中、新たな門出となりました。

秋季大祭 祭典役割

秋季大祭祭文

立教百八十年十月二十二日

獻饗長 片山 勲
伝 供 長谷川邦昭・雲庵道延・窪田靖明・篠原丕王・永山晴明・吉田晴雄・向所隆文・永島宗行・大上道徳・高島栄造・太田昭一・宮路和徳・奥村龍夫・肥後章・茶屋原良昭位下道治上野作也・渡部友見・伊東康成・加藤文男・
 香川秀孝・宮路茂照・橋口徹・山下英久・香川勝己・今野孝・溝口晋太郎・片山和信
雅楽奉仕者 岡崎八十則・文岡育則・高垣光治・雲庵春彦・大矢万三・片山直明・長尾海和・岩橋守行・伊東賢太郎・鎌田康典(順不同)

祭主 指図方	大教会長	片山 肇	大西 知
	鳥澤繁實	岡崎マージン	平井真治郎
	鷹者	賛者	
地 方	座りづとめ	てをどり前半	てをどり後半
	岡崎俊郎	西山道教	大西 知
	岩橋慶三	吉田晴雄	高島 栄造
てをどり	大教会長	老木邦光	篠原丕王
	片山 勲	窪田靖明	菅岡繁幸
	高島清弘	岡崎八十則	後藤 正治
てをどり	會長夫人	池田さわみ	雲庵まち子
	片山やすゑ	片山孝代	原口和子
	長尾澄子	牧野ハル子	上田敬子
ちやんぼん 拍子木	井上 哲	大上道徳	長尾海和
	寺本管一郎	花田百一	吉田知彦
	片山好治	永島宗行	長門淳一
太 鼓	長谷川邦昭	向所隆文	岩橋守行
	岡崎マージン	老木俊彦	今野 孝
	牧野道昭	片山和信	高垣光治
すりがね	片山 榮	花田菊子	片山孝子
	向所暉美子	和 田敏恵	岡崎むつゑ
	老木加代子	宮路實子	今野晴江
三味線	世話人宮森与一郎先生		
胡弓			

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理玉命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます。親神様には、天保九年十月二十六日、旬刻限の到来と共に、教祖を月日のやしろとして、この世の表にお現れ下さり、よろづ委細の元の真実を明かし、ちばを定め、つとめを教え、親の自由を見せて、陽気ぐらし世界の道をお啓き下さいました。

以来、果てしない親心と尽きせぬご守護のまにまに、真実の親を慕う人々も弥増して、今日の姿をお見せ頂いております限りない御慈愛の程は、誠に有難く勿体ない極みでございます。

私共は、ひたすら真実の道を辿らせて頂く喜びを胸に、ご存命の教祖のお働きに凭れて、たすけ一条の御用を務めさせて頂いておりますが、その中にも今日の吉日は、当大教会の秋の大祭を執り行う意義深い日柄でございますので、只今より役目に与る奉仕者一同、立教元一日の親の御心を心に湛えて、心を一つに合わせ、座りづとめをどりを陽気に勇んで勤めさせて頂きます。

御前には、今日の日を楽しみに帰り集いました教え子達一同が、同じ思いでおうたを唱和して、日頃の厚き御守護に御礼申し上げ、なおも一層の成人をお誓い申し上げる状をもお受け取り下さいます、親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

なお、本日は、本部長・大教会世話人、宮森与一郎先生のお入り込みを賜り、時句の思いをお聞かせ頂きます。

更にこの月二十六日の立教百八十年秋季大祭には、一人でも多くの方々と、よろこびの心一杯におちばへ帰らせて頂きたいと存じます。

事分けて、去る九月一日、真柱継承者中山大亮様と

布恵様の結婚式が芽出度く執り行われましたが、大祭当日の夕づとめ後には、「御成婚慶びの集い」が、神殿東礼拝場前広場から、おやきこやかた真東棟にわたって催されるに当り、お二方を共々にお祝い申し上げます。せていただきますたく存じます。

又、この月二十五日夕刻、「人材育成講習会」を本島詰所に於て開催し、本部長・布教部長、井筒梅夫先生のご出向のもとに、人材の育成と丹精についてのおちばの声を聞かせ頂きます。

加えて、二十七日には、第九十三回、天理教青年会総会が開催されるに当り、会員が、おちばに集い、親の声を戴いて、創立百周年にむけてお育てお導き下さいますようお願い申し上げます。

入社祭

(立教180年10月22日)

- ▼白檀△ So Sheng Chung △ Lo Chen
- Ying ▼ポートランド△ Katayama
- Ryujii Jayden △ Nate Solback △ Yuko Solback

【計5名】

10月22日(日)
【香川県丸亀市】

天 候 大雨
 最低気温 16.0℃
 最高気温 18.3℃
 平均気圧 1000.9 hPa
 平均湿度 95 %
 平均風速 2.2 m/s
 日照時間 0.0 時間
 降水量 108.5 mm
 ※ 降水量は一日の総雨量

人材育成講習会 247名受講

教会長子弟育成委員会(牧野道昭実行委員長)では、10月25日午後7時より詰所講堂にて「人材育成講習会」を実施。教会長夫妻を始め、秋季大祭に帰参したようぼく247名が熱心に受講しました。

講師は井筒梅夫先生(本部長・布教部長・若津大教会長)

により約1時間余りの講話。続いて質疑応答が約30分間行われました。

井筒先生はまず教祖130年祭における真柱様のお言葉を引用され「次の教祖140年祭を目



指して、今はようぼくを育て増やすことに取り組む旬」であることを示され、現在本部で開催されている「後継者講習会」について、「矢印を自分に向けて、日々陽気ぐらしの

実践ができていくか見つめ直すプログラムになっている。アンケートにおいて満足度が非常に高い」ことを述べられました。

続いて教会について「教会は、たすけて頂ける所。ようぼく信者にとつて、所属教会が親元になる。事情や身上で悩んだとき、教会に行けば教

えの理を論じてくれる。おたすけしてもらえぬ所」である。しかしながら、「何かをしてもらえぬという心から『私はこの教会で何が出来るのか』と思索し勤めさせて頂くのが成人の歩みである」とし、さらに、教会から遠く離れた場所で生活している場合、「日頃は教区や支部、近所の

教会などで、地域の活動に参加することも成人の歩み」であり、教会と地域活動が成人の歩みに不可欠であることを述べられました。

その「成人の歩み」の上で大切なことは、「いつも信仰の基本に立ち返ること。信仰の基本とは、ご守護に対してご恩報の心を持つこと」である。そもそも親神様のご守護は「当たり前」にある。「病気が当たり前であった身体が当たり前であった姿」であり、「病気のご守護とは、当たり前でなかった身体が当たり前に戻る」と、当たり前の中、親神様のご守護を身に感じるかは、身上になつたり、事情に遭わなければ気がつかないことが多い。

そしてご自身が25歳で大会長に就任した最初の1年間、前真柱様の親心を頂いて布教に専従した経験をお話の台に、布教師の先輩から「ふしの中から親心を悟ることを教えられる。教会長はおつとめとおさづけだけでたすけ一条の道

を通ることが出来る。それ以上を望むのは欲」と悟り、「どんな道中でも、御存命の教祖がお働き下さっていること」を仕込まれ、先生の信仰の大きな柱の一つとなっていることを披露されました。

さらに「教会は陽気ぐらし道場であり、まずは教会の雰囲気作りが大切」と具体例をもって説明され、「教会を足場に、人を育てる」こと。そのためには「逸話篇の中に、教祖がお屋敷へ帰ってくる人

にどのようにつづいたのか。そのひながたに学ぶことが、教会が盛んになることにつながる」と、何事も教祖ひながたの道を手本に思索し教えを実践することが、自らが育ち、人材を育成することになることを述べられました。

続いて10分間の休憩をはさんで、質疑応答では繰り返し「教祖ひながたの道の中に答えがある」と、ご自身の体験や悟りを交えて分かりやすく会場を笑いに包みながらお話しされました。

なおこの講話は、CDで頒布されます。お求めは教会長子弟育成委員会まで。

天理教青年会総会

第93回天理教青年会総会は、10月27日午前10時より本部中庭で開催され、本島分会(片山秀明委員長)より40名が参加しました。

当日親里は早朝よりめずらしく濃霧に包まれ、午前8時詰所写真の間に集合した会員に対し、大教会長は「足元をしつかり見つめ、真柱様のお言葉にフォーカスを当てて、心に治めさせて頂こう」と述べられました。その後、会場まで徒歩で移動し、快晴のご守護の下、式典に参加しました。





後継者講習会受講者名簿

■第6次(10月7日～9日)

- ▼本島△上野里子△桐山真菜
- ▼本攝△世古典子 ▼攝津△
- 鎌田仁史 ▼同朋△梅木和幸
- ▼栄森峰△西森孝子 ▼吉松
- 峰△小森伊奈△永田成美 ▼
- 肥後八峰△成田雄治 ▼新信
- 峰△松下絃子 【計10名】

■第7次(10月13日～15日)

- ▼本備前△伊東賢太郎 ▼本
- 幹△宮地あやか ▼本新田△
- 窪田てる江 ▼倉峰△上山薫
- ▼吉松峰△藤島正善 ▼鶴峰
- △尾関貴信△尾関操【計7名】

「日常は奇跡の連続である」という言葉が心に響きました。物事の捉え方は自分の心次第で変わりますが、私は色々な面から見られず、マイナスに受けとってしまふ事が多いです。しかし、どんな出来事でも自分に何を気づかせてくれる為に起こっているのだと考えられる自分になりたいと感じました。親孝行、夫婦仲良くする、子どもは親の姿を現してやることを意識して生活していきたいと思えます。(24才女性 よつぽん)

「日々常々誠の心で通ることが大切である」と学びました。普段、何気なく行っている事一つひとつが、いざという時に出てくる。それは悪い癖として現れてしまふ時もある。無意識に人を感動させる行いとなって現れる時もある。だからこそ日々の行動一つひとつを丁寧にしていきたい。そしてそれは、おちばや教会へ帰った特別な時でなく、一番自分が素の時(家)でこそ鍛えられると教えて頂きました。夫婦の絆を大切に、親しき仲にも例をつくし、家族の中で陽気へらしを实践していきます。(24才男性 よつぽん)

親から言われて仕方なく参加しましたが、深い話ができたり、同じ悩みを抱えている人とお引き寄せ頂いて、不思議だな、やっぱり来て良かったなあと、2泊3日、じゃ足りない。もっと過ごしたかったです。(20才女性 よつぽん)

私自身、今回で3度目の受講です。前回、前々回と受け取り方は違っていたと思います。親の立場になった今、ねりあい、同じ悩みを抱え、不足をされる人の話など、決して私一人ではないんだなと思、スッキリしました。改めてこのお道は、たんのうをして、喜んで通うことを再確認しました。

「人生が変わる講習会にしてほしい」と大亮様は仰いましたが、本当にその通りになったと思います。これからも低い心で陽気へらしを实践させて頂きます。(39才男性 教人)

グループワークでは、同じ年齢層の方と話し合え、境遇が似ていたり、子育てや家族のことなど、話したい内容に共感できることが多く、話し足りない程あったという間でした。

大変励みになり、活力になり、おさづけの尊さ、おつとめ、願う心の大切さ、にをいげけに向かう心の勇み、夫婦、親子で助け合っ心等々、たくさん先生、仲間より教えられました。

教会へ帰りましたら、変わらぬ心で精一杯勤めたいと思います。貴重な素晴らしい講習会に参加させて頂き、誠にありがとうございました。(40才女性 教人)

相手を変えようと思つのではない、自分が変わることの大切さをあらためて感じました。38母屋ではスタッフの方たちのおかげで、子どもを連れていても過(し)やさしく、ありがとうございました。(31才女性 よつぽん)

事情はいび

(立教180年10月26日)
本倉岡分教会
任命願
新任教会長 谷口十糸子
臨時祭典願

就任奉祭 立教180年11月3日

本九肥分教会
任命願

新任教会長 上潟口節子
臨時祭典願

就任奉祭 立教180年10月29日
以上

おどげの理拝戴

(立教180年9月分)

▼吉松峰△田中千佳子
【計1名】

おどげのお取り次ぎ報告

(立教180年10月22日)

提出教会 27教会

報告数 1,502回

累計 14,332回

※前年同月累計差 3238回減

修養科第16期修了

(立教180年10月27日修了)
▼雅峰△荻合桂
【計1名】

教人資格講習会修了

(立教180年9月10日修了)

エヌ・シー ジミー・ドウ

(立教180年10月11日修了)

本廣 白垣初生

証拠守り下附

(立教180年9月分)

本篠2
【計2名】

ろくち会

(立教180年10月分)

▼本島△片山幹太・片山かおり・香葉子・幹太郎・好次・昇太△長尾真実・幸太△片山秀明△藤山さちよ

▼樺太分教会 ▼本樺△大上ほの香・はる香・太吉 ▼本浜

△片山清枝・正枝・誠 ▼本攝△片山元一・直道・菜々 ▼崇徳分

教会△高垣ひかり ▼与島分教会

▼ポートランド教会△片山和信・陽子・昇慶・竜次 ▼カリフォル

ニア教会 ▼シートタック教会

ご芳志に厚くお礼申し上げます

大教会長動向

▼11月(予定)▲

1日、本部神殿奉仕当番

3日、本倉岡分教会
会長就任奉告祭

4日、後継者講習会

第9次講義

5日、後継者講習会

第9次あいさつ

10日、後継者講習会

第10次あいさつ

12日、本廣分教会

創立100周年記念祭

14日、二代真柱様50年祭参拝

18日、本邦分教会月次祭巡教

19日、後継者講習会

第11次あいさつ

22日、大教会月次祭執行

新任教会長招宴

23日、青年会本島分会総会

24日、修養科門出まなび

26日、本部月次祭参拝

27日、かなめ会出席

28日、本部新任教会長の集い

30日、本部神殿奉仕当番

以上



「教祖50年祭のとき、親父が尼崎商船に頼んで船を本島に寄ってもらい、わしは九州のおばあさんと一緒におちばがえりしたんや」
※教祖50年祭は昭和11年。親父とは寺本朝男先生(当時30歳)のこと。

寺本管一郎翁が5歳のときの団参の思い出話を聞かせてくれた。まず本島泊にある小島神社前から通い船に乗り、沖に停泊していた商船に乗船する。船員が歩み板を渡し、一本通した竹竿をつかんで渡った。通い船には1度に20〜30人くらい、3往復ぐらいした。その後商船は多度津港へ行き、半日かけて船荷の積み替えをする。その間、多度津公園(桃陵公園)で「二太郎やあい像」や猿、孔雀を見て時間を過ごした。

「二太郎やあい」とは尋常小学校国語読本に出てくる美談で、銅像は昭和6年に建設されたが、昭和17年に戦時の金属回収で供出され、その後コンクリート像で再建された。管一郎少年が見たのは、今はない銅像の方であろう。夜になって多度津港を出港し、大阪港には翌朝接岸した。

「大阪では海面がいっぱい跳ねていたので、魚がぎょうさんおるなあ」と思ってみたら、雨だった。

気象庁ウェブサイトで大阪の過去の気象データを調べてみると、昭和11年1月、大阪で雨が降ったのは2日に1ミリ、25日に18・6ミリの2日間だけ。つまり本島を1月24日に出発し、25日朝に大阪港へ到着したと推察できる。18・6ミリとは、まとまった雨なので海面に魚が飛び跳ねているように見えただろう。

24日、多度津の最低気温は氷点下3・5℃、最高気温5・7℃。多度津公園での時間つぶしは手が凍えるほど寒かっただろう。翌朝の雨はみぞれだったかもしれない。

当時、本島通信は年3〜4回だけの刊行だった。教祖50年祭は、アメリカから初めての大型団参、別科第55期に過去最高の173名が志願、さらに新設教会が相次ぐなど活況を呈していた。本島からの団参については記録に残されていない。(向所)



※写真は銅像時代の「二太郎やあい像」



立教181年心定め提出

【総務部】

- 立教 181 年心定めは、11 月 22 日までに、直轄教会ごと所定の用紙にて大教会長へ提出して下さい。

布教の家入寮案内

【青年会本島分会】

- 布教の家 立教 181 年度 入寮案内の冊子が配布されました。若干数を詰所事務所に置いてありますので、ご利用ください。
- 願書配布：11 月 25 日開始
- 願書受付：1 月 25 日午前 9 時より
2 月 25 日午後 4 時

青年会本島分会総会

【青年会本島分会】

- step by step できることから始めよう
- 日時：11 月 23 日(祝)午前 11 時より
 - 会場：本島大教会
 - 参加御供：500 円
 - 服装：ハッピー

統計 (9 月 1 日～ 30 日)

教会名	初席	中席	妻孥	修養料	教人講習	検定講習	にをいがけ名簿提出教会 (10 月)											
							本島	本千代	栄峰	本室	本山海	大雄峰	渋谷	本府中	雄福峰	40		
本都		3					本島	0	本千代	3	栄峰	39	本室	5	本山海	3	大雄峰	22
本日比		1					渋谷	20	本府中	3	雄福峰	40	御幸濱	5	崇徳	5	雄山峰	3
安藝本中		2					本桶川	4	本廣	4	栄森峰	19	代々木	10	本陽山	2	栄星峰	2
吉峰	1						本萬代	2	本新田	2	栄東峰	20	本都	105	赤峰	9	霊峰	17
栄峰		1					本京	5	雅峰	1	實峰	9	本京	5	雅峰	1	實峰	9
大雄峰	1	1					本草	29	吉峰	14	吉松峰	49	本京	5	雅峰	1	實峰	9
栄森峰	1	1					本治	14	豪峰	49	鶴峰	80	本京	5	雅峰	1	實峰	9
吉松峰		1	1				本静森	7	倉峰	5	仙峰	12	本京	5	雅峰	1	實峰	9
鶴峰		3					合計	4	13	1	0	1	0	計 36 教会	618 名			
仙峰	1																	
エヌ・シー					1													

会計部より

【会計部】

- 大教会総合会費は 1 ヶ月 4,000 円(年額 48,000 円)です。各会のスムーズな運営のため、遅れないよう、大教会会計部へお納め下さい。
- 立教 181 年お鏡料・献灯料・御神酒料一教会 2,000 円です。本年 12 月 22 日までに、大教会会計部へお納め下さい。

11 月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

〈大教会・炊事ひのきしん〉

- 期間：11 月 21 日～ 22 日
- 派遣教会：本浜②、本九台①

〈詰所・炊事ひのきしん〉

- 期間：11 月 24 日 20:00～ 26 日 13:00
- 派遣教会：渋谷②、安藝本中①

学生おせちひのきしん隊

【本島学生担当委員会】

- 期間：1 月 4 日(木)～ 7 日(日)
- 参加対象：高校生、大学生、大学院生、短大生、専門学校生で、全期間参加できる人
- 宿泊：本部施設
- 参加費：2000 円
- 申込締切：12 月 15 日(金)
- 詳細については、池田さわみ本島学生担当委員長まで

秋のほんじま・よかナイト!

【よかナイト! 実行委員会】

- おちば秋の夜長を、お笑いで過ごそう!
- 日時：11 月 25 日(土)午後 7 時より
 - 会場：本島詰所 4 階講堂
 - 内容：有志によるお笑い、ウルトラクイズ、フォトコンテスト、大喜利など
 - 現在、出演者を募集しています。
 - お問合せは、担当(向所隆文)まで

フォトコンテスト作品募集

【本島通信】

- フォトコンテスト R180 作品募集
- テーマ：「おちばをめざして」
 - 応募締切：立教 180 年 11 月 25 日(土)午後 5 時(必着)
 - 応募資格：どなたでも応募できます。
 - ※ただし「秋のほんじま・よかナイト!」(11 月 25 日午後 7 時より本島詰所 4 階講堂)の審査発表会に参加が必須。
 - 応募方法：お手持ちのスマートフォンで撮影したものを「photo@honjima.com」にメール添付して送るか、デジタルカメラで撮影したものを当日詰所に直接データ持ち込み。応募点数は問いません。
 - 応募作品の規格
テーマ「おちばをめざして」
・写真はおちばでの写真に限らず、おちばがえりに関連した内容でも OK (おちばがえりの準備風景など)
・写真はスマートフォンまたはデジタルカメラで撮影した jpeg 形式に限る。(プリントしたものは不可)
・写真は未発表のものに限る。
・加工・合成・組写真は不可。

●審査結果発表

「秋のほんじま・よかナイト!」にて発表

- 入賞：グランプリ 1 名、入選若干名
- ※入賞者には記念品を贈呈します
- なお、応募いただいた写真は、応募者の許諾なく本島通信や WEB サイトで使用することがあります。
- 応募作品の送付およびお問い合わせ先
本島通信編集室 フォトコンテスト係
〒632-0093 天理市指柳町 270-1
本島詰所(担当：向所隆文)
phone: 090-8764-5615
email: photo@honjima.com

<http://www.honjima.com/>

本島大教会ウェブサイト